

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	論理国語	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		論理国語」(数研出版) 「入試頻出漢字・現代文重要語彙 TOP2500」(いいずな書店)					

学習の到達目標	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) TOP2500 課題確認テスト 等	定期考査(読解問題) レポート 等	授業内小テスト 授業の振り返り 等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	【導入】 東浩紀 『弱いつながり』	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	知技	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕
			思判表	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B(1)エ〕
			主体的	文章の内容から読み取れる筆者の意図について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
	【逆説】 清岡卓行 『手の変幻』	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	知技	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔(1)ウ〕
思判表	「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。〔A(1)ウ〕 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。〔A(1)エ〕			
主体的	文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 筆者の考えを粘り強く読み取り、学習課題に沿って自分の意見を適切に説明しようとしている。			
2 学期	【具体と抽象】 上田紀行 『「内的成長」社会へ』	・現代日本社会における「中間社会」の現状と課題を読み取る。 ・哲学的な意味を持つ語句について、その内容を理解する。	知技	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕
			思判表	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。〔B(1)オ〕
			主体的	文章の内容を踏まえて、個人と社会の関係について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
	【情報と社会】 港千尋 『疑似群衆の時代』	・文章の内容を踏まえ、メディアと群衆現象の関係を整理する。 ・「待機する群衆」が潜在させている力について、自分の考えを述べる。	知技	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。〔(2)イ〕
思判表	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕			
主体的	筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。			
3 学期	【言葉と思考】 竹内啓 『偶然とは何か』	・人間の「必然」と「偶然」についての歴史的なとらえかたについて読みとる。 ・「偶然」の持つ価値について考えを深める。	知技	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕
			思判表	「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕
			主体的	筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	文学国語	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「文学国語」(数研出版) 「カラー版 新国語便覧」(第一学習社)					

学習の到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度や、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査(知識問題) 課題テスト 等	定期考査(読解問題) レポート 等	授業内小テスト 授業の振り返り 等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	【導入】 中島敦 『山月記』	・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。	知技	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕
			思判表	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。〔B(1)ア〕
			主体的	人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。
	【逆説】 井上ひさし 『ナイン』	・新道少年野球団のナインについてまとめる。 ・正太郎くんに対して、中村さんと英夫くんは、それぞれどのような思いをいただいているかを説明する。 ・正太郎くんを許した英夫くんと常雄くん的心情は、少年野球大会の決勝で正太郎くんが日陰を作ってくれたエピソードとどのように関連しているかを説明する。	知技	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕
			思判表	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕
			主体的	登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。
2 学 期	【言葉と思考】 夏目漱石 『こころ』	・「私 (=先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。	知技	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕
			思判表	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕
			主体的	作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。
3 学 期	【文章の背景】 井伏鱒二 『山椒魚』	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。	知技	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕
			思判表	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕
			主体的	考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	国語	科目	総合古典	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「完全マスター古典文法」(第一学習社) 「古文単語 330」(いいずな書店) 「カラー版 新国語便覧」(第一学習社)					

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 (知識問題) 等	定期考査 (読解問題) レポート 等	授業内小テスト 授業の振り返り 等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません。
------------------	----------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	『徒然草』 ・ある人、弓射ることを習ふに ・丹波に出雲といふ所あり 重要文法事項の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・便覧を参考資料として、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合う。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ ・作者によるものの見方や捉え方について理解を深めている。(2)エ)
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に随筆を読み味わい、互いに話の根底にある教訓について考え伝え合おうとしている。 ・作品の歴史的背景を元に学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。
	『徒然草』 ・九月二十日のころ 重要文法事項の復習 史伝「完璧」	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆の内容・構成などを粘り強く把握し、学習課題に沿って説明しようとしている。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。 ・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ)
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・文の構成単位を理解し、学習の見通しをもって、文を文節や単語に分けようとしている。
2 学期	『竹取物語』 ・なよ竹のかぐや姫 ・(火鼠の皮衣)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。 ・伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ)
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって物語作品を読み、執筆意図などについて積極的に批評したり議論したりしようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテキストを読み合わせて、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。
	『竹取物語』 ・(帝の求婚) ・(かぐや姫の昇天) 史伝「先従隗始」	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 ・「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア)
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の語順を理解し、現代文と漢文との比較した内容を工夫してまとめようとしている。

3 学期	『伊勢物語』 ・芥川 ・筒井筒 孟子・老子 荘子・韓非子	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・日本と中国の古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 	知技 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2)ウ) ・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。(2)エ)
			思判表 <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)
			主体的 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に歌物語を読み、人物の心情の機微表現を積極的に捉えようとしている。 ・漢文の語順を理解し、現代文と漢文との比較した内容を工夫してまとめようとしている。 ・中国の思想の根底にある背景を深め、現代に通じる考え方をまとめようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	地歴	科目	歴史総合	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		現代の歴史総合 みる・読みとく・考える(山川出版社) 明解歴史総合図説 シンフォニア(帝国書院)					

学習の到達目標	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。(知識・技能)</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考・判断・表現)</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、 知識・技能 問題を設定	定期考査において、 思考・判断 表現を問う問題を設定	レポート、話し合い等で、 「粘り強く学ぶ力」と「自らの学びを調整する力」の観点で評価をする

教科担当からの
補足・連絡

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	第Ⅰ部 近代化と私たち 1 結びつく世界と日本の開国 1. 18世紀の東アジアにおける社会と経済 2. 貿易が結んだ世界と日本 3. 産業革命 4. 中国の開港と日本の開国	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアが世界とどのように結びつたのか理解させる ・産業革命によって社会がどのように変化したか、貿易にどのような影響を及ぼしたのか理解させる ・近代国家がどのように成立したのか理解させる ・日本でどのように近代国家が形成されたのか理解させる ・帝国主義政策がとられた理由や、世界にどのような影響を与えたのか理解させる 	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文、諸資料などから18世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴を理解している。 ・諸資料から中国が欧米諸国とどのように貿易で結びついていたのかなどの情報を調べまとめ、18世紀の中国の対外貿易の状況を理解している。 ・諸資料から欧米諸国のアジア進出の背景や意図を読みとり、中国の開港や日本の開国が、人々の生活に与えた影響を理解している。 ・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、帝国主義政策の特徴や列強間の関係がどのように変化したのか理解している。
	2 国民国家と明治維新 1. 市民革命 2. 国民国家とナショナリズム 3. 明治維新 4. 日本の産業革命 5. 帝国主義 6. 変容する東アジアの国際秩序 7. 日露戦争と東アジアの変動	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の帝国主義国家化が東アジアに与えた影響を理解させる 	<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人・モノ・情報の往来を通して、世界経済のなかで東アジアがより大きな位置を占めるようになったことについて考察している。 ・日本の立憲国家の成立過程の特徴を欧米の事例の学習を振り返りながら比較の視点を用いて整理し、当時、欧米からなされた評価の意味や課題を考察している。 ・日清戦争までの東アジアの歴史的経緯、および戦後の東アジアがどのように変容したか考察している。
2 学期	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3 総力戦と社会運動 1. 第一次世界大戦の展開 2. ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 3. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4. 世界経済の変容と日本 5. アジアのナショナリズム 6. 大衆の政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの世界大戦がなぜ起きたのか、その結果どのような影響が国際社会に出たのか理解させる ・冷戦初期の対立やその影響について理解させる 	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの戦争が日本やアメリカ合衆国など、ヨーロッパ外にまで拡大した経緯について理解している。 ・教科書の本文、および導入1～4の写真・ポスター、年表などから第一次世界大戦後のソ連とアメリカ合衆国の特徴を正しく理解している。 ・諸資料から、朝鮮半島や中国の民族運動の様相とその相違を理解している。 ・諸資料の読みとりを通して、大正デモクラシーが、アメリカ合衆国の民主主義やロシア革命、社会主義政権の成立などの世界的な流れを受けて成長したことを考察している。 ・日本でも大量生産・大量消費を可能とした要因や価格の低下がもたらす社会変化、時間の概念の変化と余暇の拡大などの関連について理解している。 ・アメリカ合衆国の大恐慌と、ヨーロッパや日本がどのように結びついているのかについて理解している。 ・計画経済システムが構築された経緯や、戦時下で連合国・枢軸国ともに大規模な民衆動員がおこなわれたことやその経緯について理解している。 ・諸資料から、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を、国際連盟と比較しつつ理解している。 ・ドイツと日本の占領体制の違いから、日本の政治・社会の体制がアメリカ合衆国の強い影響力のもとで構築されたことを理解している。 ・世界の二極化がどのような形で展開したのかについて理解している。

	<p>7. 消費社会と大衆文化</p> <p>4 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>1. 世界恐慌の時代</p> <p>2. ファシズムの伸長と共産主義</p> <p>3. 日中戦争への道</p> <p>4. 第二次世界大戦の展開</p> <p>5. 第二次世界大戦下の社会</p> <p>6. 国際連合と国際経済体制</p> <p>7. 占領と戦後改革</p> <p>8. 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向</p> <p>9. 日本の独立と日米安全保障条約</p>		<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から読みとれるパリ講和会議・ワシントン会議の各国の立場の違いについて考察している。 ・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。 ・ファシズムが伸長した背景とその特徴を、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのナチ党政権を比較しつつ考察し、表現している。 ・第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移を考察し、表現している。 ・諸資料をもとにアメリカ合衆国の占領政策が転換した原因やその影響について考察している。
<p>3 学期</p>	<p>第Ⅲ部 グローバル化と私たち</p> <p>5 冷戦と世界経済</p> <p>1. 冷戦下の地域紛争と脱植民地化</p> <p>2. 東西両陣営の動向と1960年代の社会</p> <p>3. 軍拡競争から緊張緩和へ</p> <p>4. 地域連携の形成と展開</p> <p>5. 計画経済とその波及</p> <p>6. 日本の高度経済成長</p> <p>6 世界秩序の変容と日本</p>	<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 <p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦下での世界経済や日本の経済について理解させる ・EUをはじめとする地域連携の動きや情報技術の発展がグローバル化につながっていったことを理解させる ・冷戦終結後の世界がどのような秩序で成り立っているのか理解させる ・現在の世界がどのような課題を抱えているのか、その解決のためにはどのようなことが必要なのか考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響と冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解している。 ・教科書の本文や諸資料から、1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解している。 ・教科書の本文、図、諸資料などから核兵器の開発と抑制の動きを理解している。 ・教科書の本文、図、諸資料などから計画経済とその波及についての特徴を理解している。 ・安保条約改定に関する資料などをもとに、保守政権の安全保障を争点とした政策の転換の結果、公共投資や社会保障の充実が進められたことを理解している。 ・1973年ごろの日本のスーパーマーケットの写真から、なぜこのような状況になったのかを理解している。 ・1970年～2000年代にかけてアジアのGDP推移グラフを正しく読みとることができる。 ・現代の情報技術革命が、軍事分野を主導とする端末の小型化やインターネットの普及によって達成されたことを理解している。 ・「社会主義勝利通り」という道路の名称がどのように変わったのかを理解している。 ・グラフを適切に読みとり中国のGDPの伸長と、改革・開放政策、資本主義諸国との関係改善との関わりを理解している。 ・ノーベル平和賞の受賞理由が多様化していることから、様々な平和活動をしている人物・団体がいることを理解している。 ・安保理に関する資料などから、冷戦終結後の地域紛争の拡散やそれへの対応について、理解している。

<ul style="list-style-type: none"> 1. 石油危機 2. アジア諸地域の経済発展 3. 市場開放と経済の自由化 4. 情報技術革命とグローバル化 5. 冷戦の終結とソ連の崩壊 6. 現代の東アジア 7. 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 8. 地域統合の拡大と変容 9. 地域紛争と国際社会 10. 現代と私たち 		思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスを妨害するド＝ゴール大統領の風刺画を読みとったうえで、なぜド＝ゴールがイギリスの EC 加盟に反対したのかについて考察できている。 ・「ウォール街を占拠せよ」の抗議デモの写真を読みとり、どのような人々が、どのような相手に対して運動をおこなっているのかについて考察するとともに、アメリカ合衆国における上位1%の人々の収入割合の推移のグラフを読みとり、その推移の背景にある歴史事象について考察している。 ・諸資料などを読みとり、各地域統合・自由貿易協定の課題について考察している。
		主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会が直面する課題や、その望ましい解決策について、歴史上の類似事例を根拠としてあげながら追究しようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2	単位数	3
使用教科書 副教材		「数学Ⅱ Standard」(東京書籍) 「STAGE 数学Ⅱ+B」(東京書籍)					

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明する力を身に付けている。 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それらを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察する力を身に付けている。 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などの数学的な特徴を考察する力を身に付けている。 関数に関する様々な性質を考察するとともに、そこから新たな性質を導く力を身に付けている。 関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に捉えて問題解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの
補足・連絡

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学 期	【3章 三角関数】 1節 三角関数		
	1 一般角と弧度法	角の概念を一般角まで拡張することや弧度法を用いる必要性、弧度法の基本的な考え方について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の加法定理について理解し、与えられた三角関数の値を求めることができる。 2倍角の公式を活用して、与えられた三角関数の値を求めたり、三角関数を含む方程式を解いたりすることができる。 与えられた三角関数を合成することができる。 三角関数の合成を利用して最大値・最小値を求めることができる。 3次の乗法公式及び因数分解の公式を用いて計算することができる。 二項定理を活用して、整式の一般項を求めることができる。 多項式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算することができる。
	2 三角関数	一般角に対する三角関数の定義や、三角関数の相互関係などの基本的な性質について理解し、三角関数の値を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算について計算することができる。 2次方程式の解の公式や判別式の意味を理解し、2次方程式の解を求めたり、解を判別したりすることができる。 解と係数の関係を用いて、2次式を因数分解したり、2数を解とする2次方程式を求めたりすることができる。 剰余の定理や因数定理を理解し、多項式の因数分解や除法における余りを求めることができる。 因数定理や因数分解を利用して、高次方程式を解くことができる。 等式について理解を深め、恒等式となるような値を求めることができる。 不等式の性質を用いた不等式の証明の仕方について理解している。 相加平均と相乗平均の関係を理解している。
	3 三角関数の性質	座標を入れかえたり、符号を変えたりしたときの動径が表す角と三角関数の値との関係を考察し、いろいろな角の三角関数の値を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 座標を入れかえたり、符号を変えたりしたときの動径が表す角と三角関数の値との関係を考察したり、説明したりすることができる。 2つの三角関数のグラフの関係について考察したり、説明したりすることができる。 単位円を利用して三角関数の加法定理について考察することができる。 三角関数の合成を、グラフや加法定理と関連付けて考察することができる。 三角関数を用いて身近な問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 3次の乗法公式や因数分解の公式を既に学習した数と式の計算と関連付けて多面的に考察することができる。 パスカルの三角形や組合せの考えを用いて二項定理について考察することができる。 分母が異なる分数式の計算を、数の計算と関連付けて多面的に考察することができる。 複素数の四則計算について考察することができる。 複素数の必要性や意味を、負の数の平方根と関連付けて考察することができる。 2次方程式の解の公式が係数によって書き換えられることを説明することができる。 2次方程式の判別式を用いて2次方程式の解の個数を考察することができる。 2次方程式の解と係数にはどのような関係があるのかを考察することができる。 因数定理を多項式の除法と関連付けて考察することができる。 高次方程式を利用して具体的な問題を解決することができる。 等式が恒等式であるための条件を考察することができる。 等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 実数や不等式の性質を利用して不等式が成り立つことを証明することができる。 相加平均と相乗平均の関係をj利用して、不等式が成り立つことを証明することができる。 方程式・式と証明で学んだことを用いて身近な問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。
	4 三角関数のグラフ	三角関数のグラフの特徴について理解し、与えられた三角関数のグラフをかくことができる。また、三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。	
	5 三角関数を含む方程式・不等式	三角関数の性質や単位円、グラフなどを用いて、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	
	2節 加法定理		
	1 加法定理とその応用	三角関数の加法定理について理解し、与えられた三角関数の値を求めることができる。また、2倍角の公式を活用して与えられた三角関数の値を求めたり、三角関数を含む方程式を解いたりすることができる。	
	2 三角関数の合成	三角関数の合成を理解し、与えられた三角関数を合成したり、三角関数の合成を利用して最大値・最小値を求めたりすることができる。	
		【1章 方程式・式と証明】	

<p>1節 多項式・分数式の計算</p> <p>1 多項式の乗法と因数分解, 二項定理</p> <p>2 多項式の除法</p>	<p>3 次の乗法公式及び因数分解の公式, パスカルの三角形や二項定理に関心を持ち, 既に学習した数と式の計算と関連付けて, 多面的に考察することができる。また, 乗法公式及び因数分解の公式, パスカルの三角形や二項定理を活用できる。</p> <p>多項式の除法や分数式の四則計算の方法について数の計算と関連付けて, 多面的に考察する。また, 簡単な場合について計算することができる。</p>	
<p>【2節 2次方程式】</p> <p>1 複素数とその計算</p> <p>2 解の公式</p> <p>3 解と係数の関係</p>	<p>数を複素数まで拡張する意義を理解し, 複素数の四則計算をすることができる。</p> <p>2 次方程式の解の公式や解の種類判別について理解することができる。</p> <p>解と係数の関係について理解を深め, 2 次方程式の解の和や積を求めることができる。また, 解と係数の関係を2次式の因数分解に活用できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 座標を入れかえたり, 符号を変えたりしたときの動径が表す角と三角関数の値との関係を考えたり, 説明したりしようとしている。 • 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考えようとしている。 • 単位円を利用して三角関数の加法定理について考えようとしている。 • 三角関数の合成を, グラフや加法定理と関連付けて考えようとしている。 • 3 次の乗法公式や因数分解の公式を既に学習した数と式の計算と関連付けて多面的に考察することができる。 • 3 次の乗法公式や因数分解の公式を既に学習した数と式の計算と関連付けて多面的に考えようとしている。 • パスカルの三角形や二項定理に関心を持ち, 学習に取り組もうとしている。 • 分母が異なる分数式の計算を, 数の計算と関連付けて多面的に考えようとしている。 • 複素数の四則計算について複素数の性質を活用して, 考えようとしている。 • 複素数の必要性や意味を, 負の数の平方根と関連付けて考えようとしている。 • 2 次方程式の判別式を活用して, 2 次方程式の解の個数を考えようとしている。 • 2 次方程式の解と係数にはどのような関係があるのかを考えようとしている。 • 因数定理を多項式の除法と関連付けて考えようとしている。 • 具体的な方程式と対比させて, 等式が恒等式であるための条件を考えようとしている。 • 実数や不等式の性質を利用して, 不等式が成り立つことを証明しようとしている。
<p>3節 高次方程式</p> <p>1 因数定理と簡単な高次方程式</p>	<p>剰余の定理や因数定理について理解し, 多項式の因数分解や除法における余りを求めることができる。また, 高次方程式を解くことを具体的な問題の解決に活用できる。</p>	
<p>4節 式と証明</p> <p>1 恒等式</p> <p>2 不等式の証明</p>	<p>等式について理解を深め, 恒等式となるような値を求めたり, 等式が成り立つことを証明したりすることができる。</p>	

2 学 期	【2章 図形と方程式】 1節 点と直線 1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式	座標平面上にある2点間の距離を求める方法について理解することができる。 数直線上及び座標平面上の内分点・外分点の座標について理解し、図形の考察に活用できる。 与えられた条件を用いて、平面上の直線の方程式を求めたり、点と直線の距離を求めたりすることができる。また、2点や2直線の関係に着目して方程式を活用することで、図形の性質について証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の点について理解し、2点間の距離を求めることができる。 数直線上で線分を内分・外分する点及び座標平面上の線分を内分・外分する点の座標を求めることができる。 与えられた条件を用いて、平面上の直線の方程式を求めることができる。 2直線の図形的な関係について理解し、平行・垂直な直線や直線に関して対称な点を求めることができる。 点と直線の距離について理解し、その長さを求めることができる。 与えられた条件を用いて、円の方程式を求めることができる。 円と直線の共有点の座標を、連立方程式を活用して求めることができる。 円の接線の方程式を求めることができる。 円と円の位置関係や共有点の座標を求めることができる。 軌跡について理解し、与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。 与えられた不等式や連立不等式を座標平面上の領域として図示することができる。 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、指数関数のグラフをかくことができる。 指数関数の性質を理解し、指数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 指数を対数の形に表すことができる。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の値を計算することができる。
	2節 円 1 円の方程式 2 円と直線	与えられた条件を用いて、円の方程式を求めるとともに、与えられた方程式がどのような図形を表すか、判断することができる。 円と直線を、それらの方程式の関係として捉え、共有点の座標や接線、また円と直線の位置関係や2円の位置関係などについて考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、対数関数のグラフをかくことができる。 対数関数の性質を理解し、対数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 常用対数の意義を理解し、常用対数表を用いて、値を求めることができる。 常用対数の値を用いて、整数の桁数や小数の位について求めることができる。 数直線上で線分を内分・外分する点及び座標平面上の線分を内分・外分する点の座標について考察することができる。 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を利用して、図形の性質について証明することができる。 与えられた方程式がどのような図形を表すか、判断することができる。 円と直線の位置関係を、判別式や点と直線の距離を活用して説明することができる。 不等式の表す図形を考察したり、説明したりすることができる。 与えられた連立不等式を座標平面上の領域として図示し、それらを活用することができる。 指数を整数へ拡張したときの指数法則について考察することができる。 指数を整数へ拡張したときの指数法則が成り立つことを、具体的な数値を用いて説明することができる。 累乗根の定義から、累乗根の基本的な性質について証明することができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 指数と対数を相互に関連付けて、対数の性質について証明することができる。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。
	3節 軌跡と領域 1 軌跡とその方程式 2 不等式の表す領域	軌跡について理解し、与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。 与えられた不等式や連立不等式を座標平面上の領域として図示することができる。また、それらを活用できる。	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の表す図形を考察したり、説明したりすることができる。 与えられた連立不等式を座標平面上の領域として図示し、それらを活用することができる。 指数を整数へ拡張したときの指数法則について考察することができる。 指数を整数へ拡張したときの指数法則が成り立つことを、具体的な数値を用いて説明することができる。 累乗根の定義から、累乗根の基本的な性質について証明することができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 指数と対数を相互に関連付けて、対数の性質について証明することができる。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。
	【4章 指数関数・対数関数】 1節 指数関数	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、拡張したときの指数法則に	<ul style="list-style-type: none"> 対数関数の性質を用いて、数の大小について判断することができる。

	<p>1 対数とその性質</p> <p>2 指数関数とそのグラフ</p> <p>2節 対数関数</p> <p>1 対数とその性質</p> <p>2 対数関数とそのグラフ</p> <p>3 常用対数</p>	<p>ついて考察したり、数や式の計算をしたりすることができる。</p> <p>指数関数の値の変化やグラフの特徴について、多面的に考察することができる。また、指数関数の性質を用いて2つの数の大小を判断したり、指数関数を含む方程式や不等式を解いたりすることができる。</p> <p>指数と対数を相互に関連付けて対数の意味や、その基本的な性質について考察することができる。また、簡単な対数の値を計算することができる。</p> <p>対数関数の値の変化やグラフの特徴について、多面的に考察することができる。また、対数関数の性質を用いて数の大小を判断したり、指数関数を含む方程式や不等式を解いたりすることができる。</p> <p>指数と対数を相互に関連付けて対数の意味や、その基本的な性質について考察することができる。また、簡単な対数の値を計算することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数直線上で線分を内分・外分する点及び座標平面上の線分を内分・外分する点の座標について考察しようとしている。 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を活用して、図形の性質について証明しようとしている。 円と直線の位置関係を、判別式や点と直線の距離を活用して考えようとしている。 不等式の表す図形を考えたり、説明したりしようとしている。 図形と方程式で学んだことを、具体的な事象の考察に活用しようとしている。 図形と方程式で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 指数を整数に拡張したときの指数法則について考えようとしている。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考えようとしている。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考えようとしている。
<p>3学期</p>	<p>【5章 微分と積分】</p> <p>1節 微分の考え</p> <p>1 導関数</p> <p>2 導関数の計算</p> <p>3 関数のグラフと増減</p> <p>2節 積分の考え</p> <p>1 原始関数</p> <p>2 定積分</p>	<p>具体的な事象から、一般の関数についての平均変化率や微分係数を求め、その図形的な意味を考察することができる。さらに、導関数の定義を理解し、関数の導関数を求めることができる。</p> <p>導関数の性質を基に、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。また、導関数を利用して、微分係数や接線の方程式を求めることができる。</p> <p>関数とその導関数の関係を理解し、関数の増加、減少及び極値を調べ、グラフの概形をかくことができる。また、それらを方程式の実数解の個数や関数の最大・最小、不等式の証明に活用できる。</p> <p>原始関数について理解し、関数の不定積分を求めることができる。</p> <p>不定積分を用いて、定積分の値を求めたり、定積分の性質について考察したりすることができる。また、定積分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関数の平均変化率や微分係数を求めることができる。 微分係数の図形的な意味を理解し、接線の傾きを求めることができる。 導関数の定義にしたがって、関数の導関数を求めることができる。 関数の導関数について計算することができる。 導関数を利用して、微分係数や接線の方程式を求めることができる。 関数とその導関数の関係を理解し、関数の増加、減少及び極値を調べ、グラフの概形をかくことができる。 関数が極値をもつかどうかを調べたり、極値の条件から関数を求めたりすることができる。 関数の増減やグラフを調べることで、方程式の実数解の個数や関数の最大・最小を求めることができる。 原始関数について理解し、関数の不定積分を求めることができる。 不定積分を用いて、定積分の値を計算することができる。 定積分の性質を用いて、定積分の値を計算することができる。 定積分を含む関数を求めることができる。 上端が変数の定積分と微分の関係を理解し、関数を求めることができる。 積分の考えを利用して、囲まれた図形の面積を求めることができる。 絶対値のついた関数の定積分について計算することができる。 具体的な事象から平均の速さや瞬間の速さを考察することができる。 グラフを利用して、関数が導関数とどのような関係にあるのかを説明することができる。 導関数の定義を利用して、関数の定数倍、和及び差の導関数について簡単に求める方法を考察することができる。 導関数のグラフから、もとのグラフがどのような形状になるかを考察することができる。 関数が極値をもつ条件について説明することができる。 関数の増減やグラフを活用して、具体的な事象に関する問題を解決することができる。 関数の増減を考察し、与えられた不等式が成り立つことを証明することができる。 定積分の性質を用いて、定積分を計算する方法について考察することができる。 上端が変数の定積分について考察し、その定積分と微分したものとの関係について説明することができる。 積分の考えを利用して、面積を求める方法を考察することができる。 積分の考えを利用して、2つの曲線の間の面積を求める方法について考察することができる。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	数学	科目	数学B	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「数学B Standard」(東京書籍) 「STAGE 数学Ⅱ+B」(東京書籍)					

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---------	---

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

評価の方法

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物・授業への取り組み等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学 期	【1章 数列】 1節 数列 1 数列	数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般項から数列の各項を求めたり、数列の各項から一般項を求めたりすることができる。 等差数列の基本的な性質を利用して一般項を求めたり、等差数列であるときの項を求めたりすることができる。 等差数列の和の公式を利用して、項数を考えたり、倍数の和や奇数の和を求めたりすることができる。 等比数列の基本的な性質を利用して、一般項を求めたり、等比数列であるときの項を求めたりすることができる。 等比数列の和の公式を利用して、初項と公比を求めることができる。 Σの性質を用いて、和を求めることができる。 階差数列についての基本的な性質を利用して、数列の一般項を求めることができる。 数列の和から一般項を求めることができる。 分数で表された数列の和を、2つの分数の差の形に分解して求めることができる。 等差数列と等比数列の積の形の数列や、群に分けられた数列など、少し複雑な数列について和を求めたり、項を求めたりすることができる。
	2 等差数列	等差数列について関心を深め、一般項 a_n を初項 a_1 、公差 d を使って表せることを理解する。	
	3 等差数列の和	等差数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。	
	4 等比数列	等比数列について関心を深め、一般項 a_n を初項 a_1 、公比 r を使って表せることを理解する。	
	5 等比数列の和	等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。	
	2節 いろいろな数列 1 数列の和と記号 Σ	記号 Σ の意味と性質を理解し、自然数の累乗の和を Σ を用いて表すことができる。	
2 学 期	2 いろいろな数列	階差数列や数列の和から一般項を求めたり、群数列などの少し複雑な数列の一般項や和を求めたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 一定の数を次々に加えて得られるという規則をもとにして、等差数列の一般項について考えようとしている。 等差数列の初項から第n項までの和の求め方について考えようとしている。 一定の数を次々に掛けて得られるという規則をもとにして、等比数列の一般項について考えようとしている。 等比数列の初項から第n項までの和の求め方について、具体的に考えようとしている。 階差数列の和を利用して、数列の一般項を考えようとしている。
	3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式	数列の帰納的定義について理解し、漸化式を扱うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた漸化式から数列の一般項を求めることができる。 与えられた漸化式を変形することで、数列の一般項を求めることができる。 確率変数や確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。 確率変数Xの平均(期待値)や分散、標準偏差を求めることができる。 確率変数$aX+b$の平均や分散、標準偏差の性質を用いて、平均や分散などを求めることができる。 確率変数の和の平均や、独立な確率変数の積の平均、和の分散を求めることができる。 二項分布の確率や分散、標準偏差を求めることができる。
	2 数学的帰納法	数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	
2 学 期	【2章 統計的な推測】 1節 標本調査 1 母集団と標本	標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語などを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた漸化式を、どのように変形すればよいかを考察することができる。 数学的帰納法を用いて、整数の性質や等式、不等式を証明することができる。 数列で学んだことを用いて身近な問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 Xの1次式で表される確率変数について、分散や標準偏差がどのように表されるかを考察することができる。 独立である確率変数X, Yの積XYの平均と、X, Yの平均にどのような関係があるかを考察することができる。 二項分布の次数や確率の値をいろいろ変えることで、確率変数の平均や分散はどのように変化するかを説明することができる。
	2節 確率分布 1 確率分布	確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求	

	<p>2 確率変数の平均と分散の性質</p> <p>3 確率変数の和と積</p> <p>4 二項分布</p>	<p>めることができる。また、確率変数の平均と分散の意味を理解し、確率変数 X の平均（期待値）や分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p>確率変数 $aX+b$ の平均や分散、標準偏差について理解し、それらを求めることができる。</p> <p>確率変数の和の平均や独立な確率変数の積の平均、和の分散について理解し、それらを求めることができる。</p> <p>二項分布の意味を理解する。また、二項分布の確率や平均、分散及び標準偏差を求めることができる。</p>	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた漸化式を、どのように変形すればよいかを考えようとしている。 数列で学んだことを、具体的な事象の考察に活用しようとしている。 数列を活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 X の 1 次式で表される確率変数について、分散や標準偏差がどのように表されるかを考えようとしている。 独立である確率変数 X, Y の積 XY の平均と、X, Y の平均にどのような関係があるかを考えようとしている。 二項分布を利用して、平均と分散がどのようになるかを考えようとしている。
3 学期	<p>3 節 正規分布</p> <p>1 正規分布</p> <p>4 節 統計的な推測</p> <p>1 母平均の推定</p> <p>2 仮説検定</p>	<p>連続分布とその代表の正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数の確率を求めることができる。また、二項分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。</p> <p>母平均、母分散、母標準偏差や標本平均の分布、分散などを求めることができる。また、標本平均の分布と正規分布の関係を理解し、標本平均の分布から母平均を推定する方法を理解する。さらに、信頼度 95% の信頼区間という考え方を理解し、母平均や母比率に対する信頼区間を求めることができる。</p> <p>仮説検定の考えや帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域などの用語について理解し、母平均の検定、母比率の検定を行うとともに、母集団に関する予想の妥当性について判断することができる。</p>	<p>知技</p> <p>思判表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 連続分布について理解し、その確率を求めることができる。 正規分布に従うときの確率を求めることができる。 二項分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 母集団分布を活用して母平均や母分散、母標準偏差を求めたり、標本平均の平均や分散、確率を求めたりすることができる。 標本平均の分布と正規分布の関係をを利用して、確率を求めることができる。 信頼度 95% の信頼区間という考え方を活用して、母平均や母比率に対する信頼区間を求めることができる。 仮説検定の考えや帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域などの用語について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> 一般の正規分布を標準化することで、標準正規分布に従うことを説明することができる。 標本平均の平均と分散が、母平均や母分散とどのような関係があるかを考察することができる。 信頼度 95% の信頼区間と比較して、信頼度 99% の信頼区間について考察することができる。 母平均や母比率について仮説検定を行い、母集団に関する予想について判断することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 標本平均の平均と分散が、母平均や母分散とどのような関係があるかを考えようとしている。 信頼度 95% の信頼区間と比較して、信頼度 99% の信頼区間について考えようとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	化学基礎	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「改訂 化学基礎」(東京書籍) 「ニューステップアップ化学基礎」(東京書籍)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 また、物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査 等	定期考査 等	授業内小テスト 実験レポート 等

教科担当からの 補足・連絡	特にありません
------------------	---------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	1編 化学と人間生活		<p>化学と物質についての実験などを通して、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>物質の構成粒子についての実験などを通して、原子の構造、電子配置と周期表の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>物質の構成粒子についての実験などを通して、原子の構造、電子配置と物質と化学結合についての実験などを通して、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>原子の構造、電子配置と周期表について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態に関する事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>原子の構造、電子配置と周期表に関する事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合に関する事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>
	2章 物質の成分と構成元素		
	1節 物質の成分	A 純物質と混合物 B 混合物の分離	
	2節 物質の構成元素	A 元素 B 単体と化合物 C 元素の確認	
	3節 物質の三態	A 粒子の熱運動 B 物質の三態と状態間の変化 C 状態変化と熱運動	
	2編 物質の構成		
	1章 原子の構造と元素の周期表		
	1節 原子の構造	A 原子 B 同位体	
	2節 電子配置	A 原子の電子配置	
	3節 元素の周期表	A 周期表	
	2章 化学結合		
	1節 イオンとイオン結合	A イオンの生成 B イオンの分類 C イオン半径 D イオン結合とイオン結晶	
2節 分子と共有結合	A 共有結合と分子の形成 B 配位結合 C 電気陰性度と分子の極性 D 分子結晶		
3節 金属と金属結合	E 共有結合の結晶		
4節 化学結合と物質の分類	A 金属結合 A 化学結合と物質の分類		
3編 物質の変化			
1章 物質と化学反応式			
1節 原子量・分子量・式量			
物質質量	A 原子の相対質量 B 原子量 C 分子量 D 式量 A アボガドロ数と物質質量 B 1mol の気体の体積		

2学期	2節 溶液の濃度	A 溶液の濃度	知技	物質質量と化学反応式についての実験などを通して、物質質量、化学反応式の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 化学反応についての実験などを通して、酸・塩基と中和の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	3節 化学反応の表し方	A 化学反応式		
	4節 化学反応式の表す量的関係	A 化学反応式の表す量的関係 B 反応物の過不足		
	2章 酸と塩基			
2学期	1節 酸と塩基	A 酸と塩基の性質 B 酸と塩基の定義 C 広い意味の酸・塩基 D 酸と塩基の価数 E 酸と塩基の強弱	思判表	物質質量、化学反応式について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 酸・塩基と中和について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
	2節 水素イオン濃度とpH	A 水の電離と水素イオン濃度 B 水素イオン濃度とpH C pH指示薬とpHの測定		
	3節 中和反応と塩	A 中和反応と塩の生成 B 塩の種類と塩の水溶液の性質		
	4節 中和滴定	A 中和反応の量的関係 B 中和滴定 C 滴定曲線		
3学期	3章 酸化還元反応 酸化と還元	A 酸化と還元 B 酸化数 C 酸化還元反応と酸化数	主体的	物質質量、化学反応式について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 酸・塩基と中和について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	1節 酸化剤と還元剤	A 酸化剤と還元剤 B 電子の授受と酸化還元反応 C 酸化剤と還元剤のはたらきの強さ D 酸化剤と還元剤の量的関係		
3学期	2節 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用	A 金属の酸化還元反応 B 金属の反応性 A 電池のしくみ B 実用電池 C 金属の製錬 D 電気分解	思判表	酸化と還元について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	地学基礎	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		実教出版 地学基礎 新訂版					

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物、授業や実験への取り組み、等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期	1章 地球の構成と運動 1節 地球の構造 2節 プレートの運動 3節 地震と火山	1. 地球の形と大きさ 2. 地表のようす 3. 地球内部の層構造 1. プレートテクトニクス 2. 大地形の形成と地質構造 1. 地震活動 2. 火山活動 動と循環	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・エラトステネスが地球の大きさを測定した方法を理解する。 ・地球内部の層構造を知り、状態や構成物質の違いを理解する。 ・プレートの特徴と運動について理解する。 ・過去と現在のプレート運動の証拠について理解する。 ・地震発生のしくみを理解する。・火山噴火のしくみや火山噴出物について理解する。
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・エラトステネスが地球の大きさを測定した方法について説明できる。 ・地球内部の層構造を、構成物質と変形のしやすさのそれぞれの観点から説明できる。 ・プレートの運動と境界の関係、運動に伴って起こる地殻変動を説明できる。それに伴って発生する地震や火山活動について系統的に理解・説明できる。
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・地球内部の構造やその要因・発見の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・地球表層の地学現象がプレート運動と関係していることに興味をもち積極的に学習に取り組める。 ・地震や火山活動に関心をもち、自然災害の一部として学習に取り組める。
2学期	2章 大気と海洋 1節 大気と運動 2節 大気の大循環 3節 海洋の構造と海水の運動 4節 日本の四季の気象と気候 3章 太陽系と宇宙 1節 宇宙の誕生 2節 太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長	1. 高度による気圧・気温の変化 2. 大気層構造 3. 大気中の水とその状態 4. 大気の状態 1. 地球のエネルギー収支 2. 大気のエネルギー収支 3. 大気大循環 4. 温帯低気圧と熱帯低気圧 1. 海水の層構造 2. 海水の運と循環 1. 気象と気候 2. 日本の四季 1. 宇宙の姿 2. 天体の距離と光速 3. ビッグバンから天体の誕生まで 1. 現在の太陽 2. 太陽の誕生 1. 太陽系の姿 2. 太陽系の誕生と惑星の分類 3. 地球の誕生と成長	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の組成と気圧について理解する。地球は太陽放射を受け取るだけでなく赤外線を放射していることを理解する。 ・海水の組成と海洋の層構造を理解する。 ・日本の四季の天気は、勢力を強める高気圧が季節ごとに異なることによって特徴づけられていることを理解する。・太陽系の惑星の特徴や、地球型惑星と木星型惑星の違いについて理解する。 ・恒星や銀河の特徴について理解する。
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・大気層構造と各層の特徴について説明できる。 ・地球のエネルギー収支の観点から、地球が太陽から受け取る熱の行方を説明できる。 ・海流が生じるしくみと、熱輸送の観点から海流のはたす役割について説明できる。 ・太陽が誕生し、主系列星になるまでの過程を理解する。・太陽が誕生し、主系列星になるまでの過程を理解する。
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・雲のでき方や特徴に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・地球が受ける太陽放射や地球の熱収支に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・日本で発生する自然災害に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・海水の運動に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・太陽の誕生と進化の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。・宇宙に存在する天体や宇宙の構造に興味をもち、積極的に学習に取り組める。
3学期	4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層のでき方 2節 化石と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球環境 5章 地球の環境 1節 日本の自然環境 2節 地球環境の科学	1. 地層のでき方 2. 堆積岩 3. 地層を調べる 1. 化石 2. 地層の対比と地質時代の区分 1. 先カンブリア時代 2. 古生代・中生代 3. 新生代 1. 日本列島がつくる自然の特徴 2. さまざまな自然災害と防災・減災 1. 人間活動がもたらす自環境問題と自然変動 2. 気候変動と地球温暖化 3. 地球環境と物質循環 4. 地球環境に与える人間生活の影響	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・風化、侵食、運搬、堆積の一連の流れを理解する。 ・地層の重なりや変形のしかたから、地層の形成過程を推定できることを理解する。 ・化石を用いて地層の年代や地層が堆積した環境を推定できることを理解する。 ・地層の重なりや変形のしかたから、地層の形成過程を推定できることを理解する。 ・日本列島は急峻な地形で、多量の降水がもたらされていることを理解する。
			思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積作用によって形成される地形や堆積岩の形成過程について説明できる。 ・化石を用いて地層の年代や地層が堆積した環境を推定できることを理解する。 ・古生物の変遷と地球環境の変化との関係について説明できる。 ・人間活動によって起こる環境変化のしくみと、その影響について説明できる。 ・地震や火山噴火、大雨による土砂災害の原因と対策について説明できる。
			主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・形成後に変形した地層について、地層が変形する前の様子や変形の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・地層に含まれる化石から地層の年代や堆積時の環境を推定できることに興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・生物の活動によって形成された環境に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・地球環境の変化やその原因や対策に興味をもち、積極的に学習に取り組める。 ・日本で発生する自然災害に興味をもち、積極的に学習に取り組める。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	理科	科目	物理基礎	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「改訂版 物理基礎」(数研出版) 「改訂版 リードα物理基礎」(数研出版)					

学習の到達目標	物理の学習を通して、自然に対する関心を高め、基礎的な知識の定着を図るとともに、実験や観察などを通じて科学的に探究する力を育成する。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしているか。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、知識・技能を問う問題を設定する	定期考査において、思考力・判断力・表現力を問う問題を設定する。	提出物、授業や実験への取り組み、等で「粘り強く学ぶ力」と「自ら学ぶ力」の観点で評価する。

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度	<ul style="list-style-type: none"> ・速さの定義, および単位 ・$x-t$ 図と $v-t$ 図 ・ベクトルとしての速度 ・平均の速度をと瞬間の速度の関連と $x-t$ 図 ・相対速度の意味と計算方法 	<p>知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体の速さの式を理解し, $x-t$ 図, $v-t$ 図を理解できている。 ・物体の運動を表すには向きが必要であり, 速さと速度, 移動距離と変位の違いを理解している。 ・平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。 ・直線上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解している。 ・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。 ・等加速度直線運動を表す 3 つの式の導出過程を理解し, その式やグラフを正しく運用することができる。 ・自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。 ・自由落下や鉛直投射の公式群の運用ができる。 ・水平投射は鉛直方向には自由落下, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。 ・速度測定装置(記録タイマー等)を正しく用いて, 重力加速度の大きさを測定し, 9.8m/s^2 前後の値になることを確認することができる。 ・重力, 垂直抗力, 摩擦力, 糸が引く力, 弾性力について, 理解できている。 ・力がベクトル量であることを認識し, 力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき, つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の 2 力とつりあいの 2 力を区別して考えることができる。 ・3 つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を確認でき, 理解できている。
	2. 加速度	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上の速度の合成・速度の分解・速度の成分 ・平面上の相対速度 ・直線運動における加速度の定義 ・加速度の正, 負の意味 ・等加速度直線運動の 3 公式の導出 	
	3. 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> 重力のみを受けた物体の落体の運動 ・自由落下や鉛直投射などの式の導出と運用 ・運動の分解を通して, 水平投射, 斜方投射の式の立て方と運用 	
	第2章運動の法則 1. 力とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・物体及ぼす力の働き ・ベクトル量としての力 ・重力 $W=mg$ [N] の導入 ・垂直抗力や摩擦力の導入 	<p>思 判 表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。 ・相対速度の意味と求め方を説明できる。 ・速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・等加速度直線運動する物体のようすについて説明できる。 ・加速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・重力加速度の意味を正しく理解し, 自由落下や鉛直投射における物体の運動のようすを考えることができる。 ・重力加速度の大きさを測定し, 文献などで調べた値と比較し, 文献値と測定値の間に生じた誤差の原因について考えることができる。 ・フックの法則とばね定数の意味を理解し, グラフからばね定数を読み取ることができる。 ・重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり, 運動の状態によらないことを説明できる。 ・力の表し方を理解し, 「1N」はどのような力か説明できる。 ・作用・反作用の 2 力とつりあいの 2 力の違いを理解し, 力のつりあいの式を考えたり, それぞれの 2 力の間の関係について説明できる。
	2. 力のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> ・弾性力について, フックの法則とばね定数の学習 ・ベクトル量としての力の合成と分解 ・x y 方向への力の分解と複数の力がはたらく場合の x 成分, y 成分のつりあい ・作用反作用の法則 ・つりあう 2 力の関係と作用反作用の 2 力の関係との違い ・物体にはたらく力が正しく見つけられるようにする 	
		<p>主 体 的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の運動から, 速さ, 時間, 進む距離についての関係に興味をもち, 速さと速度の違いや, 相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 ・スタート直後の速さの比較によって, 加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 ・日常の運動から, 落下する物体の運動に興味をもち, 自由落下する物体の運動, 鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。 ・重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組んでいる。 ・力が合成・分解して表されることに興味をもち, 「力がつりあう」とはどのようなことを理解しようとしている。 ・「作用・反作用」と「つりあい」の 2 力との違いについて, 考えようとしている。 	

2 学 期	<p>3. 運動の法則</p> <p>4. 摩擦を受ける運動</p> <p>5. 液体や気体から受ける力</p> <p>第3章 仕事と力学的エネルギー</p> <p>1. 仕事</p> <p>2. 運動エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慣性の法則 ・物体にはたらく力の合力が0のとき、物体は等速直線運動(または静止)をし続けることを強調 ・運動方程式について、物体に生じる加速度が、物体が受ける力と物体自体の質量に定量的に関連することを理解する ・1Nの定義 ・落下する物体に運動方程式を適用し、重力と重力加速度関係を学習する ・質量と重さの違い ・いくつかの具体例を用いて、運動方程式の立て方を習得する。 ・静止摩擦力、最大摩擦力の導入 ・最大摩擦力 $F_0 = \mu N$ の導出 ・動摩擦力 $F' = \mu' N$ の理解 ・圧力の定義 ・液体や気体の中で圧力の式とその単位について ・アルキメデスの原理と液体や気体中での浮力 ・空気中を落下する物体の空気抵抗について ・終端速度の式 ・仕事の定義と単位 ・物体の移動方向にはたらく力がする仕事、移動の向きに垂直にはたらく力のする仕事、移動の向きと逆向きの力がする仕事、および正・負の仕事 ・仕事が $F-x$ 図の面積であること ・仕事の原理 ・仕事率の定義と単位 ・運動エネルギーの導出 ・運動エネルギーの変化と外部からなされる仕事 	<p>知 技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 ・さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ・注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数 μ と、垂直抗力 N との積で表されることを理解している。 ・静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。 ・圧力を求める式を理解できている。 ・水压を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 ・仕事、仕事率を計算して求めることができる。 ・物体に対して力がはたらいていても、仕事が0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。 ・「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。 ・運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であることを理解している。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。 ・重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーを計算することができる。 ・物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事が、位置エネルギーであることを確認できる。 ・さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 ・物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。 ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 ・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ・物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ・熱機関と熱機関の効率について理解している。 ・波の発生原理や基本事項を理解している。 ・縦波と横波の違いを理解しており、縦波を横波の形で表現できている。 ・定在波の生じるしくみを理解している。 ・ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 ・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 ・音の波形をオシロスコープやPCを用いて観察できる。 ・糸の長さを何種類かに変えた振り子で振り子の共振を観察することで、振り子の性質を理解できている。 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ・気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。

<p>3. 位置エネルギー</p> <p>4. 力学的エネルギーの保存</p> <p>第2編 熱</p> <p>第1章 熱とエネルギー</p> <p>第1節 熱と物質の状態</p> <p>第2節 熱と仕事</p>	<p>の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重力による位置エネルギー ・基準水平面のとり方と、正負のエネルギーの理解 ・弾性力による位置エネルギーの導出と性質 ・保存力の性質および定義 <p>力学的エネルギー保存則の例示から法則性の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体に保存力以外の力がはたらくときの力学的エネルギーが変化 ・力学的エネルギーの保存則の具体的な計算 <p>熱運動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対温度 (K) の導入とセルシウス温度 (°C) との関係 ・エネルギーの一形態としての熱 ・熱容量と比熱の定義 ・熱平衡と熱量保存則 ・物質の3態と熱運動の関係 ・物体の熱膨張 <p>力学的な仕事と分子の熱運動の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気体の内部エネルギーの意味と性質 ・熱力学の第一法則 ・不可逆変化と熱機関 	<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 ・運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 ・摩擦力がどのような力かを理解し、説明できる。 ・水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。 ・物体に対して力がはたらいなくても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。 ・「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。 ・運動エネルギーがどのようなものを理解し、説明できる。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。 ・重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 ・水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 ・不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 ・波に基本事項について説明できる。 ・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 ・定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 ・固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 ・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 ・音の特徴づける3つの要素について説明できる。 ・うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 ・弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 ・倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。
<p>第3編 波</p> <p>第1章 波の性質</p> <p>第1節 波と媒質の運動</p> <p>第2節 波の伝わり方</p> <p>第2章 音</p> <p>第1節 音の性質</p> <p>第2節 発音体の振動と共振・共鳴</p>	<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波を表す要素(振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さ) ・正弦波の発生と特徴 ・波の位相について ・横波と縦波、縦波の横波表現 <p>波の重ねあわせの原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定在波の発生と特徴 ・自由端と固定端の反射と位相の変化 <p>音波と縦波</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の高さ・大きさ・音色 ・空气中を伝わる音の速さの性質 ・うなりの現象 <p>振動体の共振・共鳴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦の振動 ・気柱共鳴、閉管と開管 	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。 ・摩擦力がなくなるときの比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。 ・日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えてようとしている。 ・日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。 ・運動している物体は、どのようなエネルギーをもっているかについて興味をもち、考えようとしている。 ・位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。 ・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・波が衝突や反射するときどのようなようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。 ・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 ・音の特徴づける3つの要素について説明できる。 ・うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 ・音の波形の観察について、主体的に取り組んでいる。 ・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べることができる。

3 学 期	第4編 電気 第1章 物質と電気 第1節 電気の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気と物体が帯電するしくみ 	知 技	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の帯電するしくみについて理解している。 ・電流と電圧の基礎について理解している。 ・オームの法則，抵抗の接続，抵抗率の基礎について理解している。 ・ジュールの法則について理解している。 ・電力量と電力の意味（およびその公式）について理解している。 ・直線電流，円形電流，ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。 ・電磁誘導の基礎を理解している。 ・交流電圧の基本について理解している。 ・変圧器と送電の基本について理解している。 ・電磁波の振動数と波長の関係を理解している。また，ラジオ放送やテレビ放送，携帯電話など，身近に使われている電磁波の周波数についても把握している。 ・エネルギーにはどのような種類があるか，また，身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 ・手回し発電機を用い，力学的エネルギーを電気エネルギーに変換できる。 ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し，それらの長所と短所を理解している。 ・原子力発電に関連して，原子核の構成などを理解している。 ・身のまわりの放射線量を測定器を用いて測定できる。また，放射性物質についても，放射線量を測り，身のまわりの放射線量とどの程度異なるかを確認できる。
	第2節 電流と電気抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・電流の向きと大きさ ・オームの法則と抵抗率 ・抵抗の接続 		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し，それらの長所と短所を理解している。 ・原子力発電に関連して，原子核の構成などを理解している。 ・身のまわりの放射線量を測定器を用いて測定できる。また，放射性物質についても，放射線量を測り，身のまわりの放射線量とどの程度異なるかを確認できる。
	第3節 電気とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュール熱発生と電流がする仕事（電力量）の関係 ・電力量と電力 	思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し，それらの長所と短所を理解している。 ・原子力発電に関連して，原子核の構成などを理解している。 ・身のまわりの放射線量を測定器を用いて測定できる。また，放射性物質についても，放射線量を測り，身のまわりの放射線量とどの程度異なるかを確認できる。
	第2章 磁場と交流 第1節 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> ・磁力線 ・直線電流の周囲，円形電流の円の中心，ソレノイドの内部の磁場の向きについて ・電流が磁場から受ける力について，直流モーターのしくみ ・電磁誘導 		<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス棒を絹などでこすった際に，それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 ・オームの法則を理解し，I-V グラフより，金属の抵抗値を求めることができる。 ・家庭にきている電気の電圧・電流の値から，使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。 ・金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく，大きいほど熱として消費しやすいことを理解している。 ・電気回路における，接続ごとの電流，電圧の大きさについて適切に理解しており，説明できる。 ・導体の抵抗値は，形状とどのような関係があるかを説明できる。 ・ジュール熱について，電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。 ・電圧を一定にしたとき，消費電力と抵抗値は反比例の関係にあることを説明できる。 ・電流と磁場の関係について説明できる。 ・モーターの回る原理について説明できる。 ・直流と交流の違いについて理解しており，それを説明することができる。 ・ある事象に対して，どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し，説明することができる。 ・再生可能エネルギーについて，枯渇性エネルギーとの違いを考え，説明できる。 ・火力，原子力，水力，風力の発電の共通点について説明できる。
	第2節 交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> ・交流発電機，交流電圧・電流の性質 ・変圧器 ・電磁波の種類 		<ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎で学習してきた内容が，スポーツ，防災，自動車とどのように関連しているかについて理解している。
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 第1節 エネルギーの移り変わり	<ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギーや熱エネルギー，電気エネルギー以外のエネルギー ・全てのエネルギーを含んだエネルギーの保存 ・特に光エネルギー，化学エネルギー，核エネルギーについての具体的な利用について 		<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス棒を絹などでこすった際に，それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 ・オームの法則を理解し，I-V グラフより，金属の抵抗値を求めることができる。 ・家庭にきている電気の電圧・電流の値から，使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。 ・金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく，大きいほど熱として消費しやすいことを理解している。 ・電気回路における，接続ごとの電流，電圧の大きさについて適切に理解しており，説明できる。 ・導体の抵抗値は，形状とどのような関係があるかを説明できる。 ・ジュール熱について，電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。 ・電圧を一定にしたとき，消費電力と抵抗値は反比例の関係にあることを説明できる。 ・電流と磁場の関係について説明できる。 ・モーターの回る原理について説明できる。 ・直流と交流の違いについて理解しており，それを説明することができる。 ・ある事象に対して，どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し，説明することができる。 ・再生可能エネルギーについて，枯渇性エネルギーとの違いを考え，説明できる。 ・火力，原子力，水力，風力の発電の共通点について説明できる。
第2節 エネルギー資源と発電	<ul style="list-style-type: none"> ・一次エネルギーと二次エネルギーについて ・発電の方法としくみ ・原子力発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーについて，枯渇性エネルギーとの違いを考え，説明できる。 ・火力，原子力，水力，風力の発電の共通点について説明できる。 		
物理学が拓く世界	<p>スポーツ，防災，自動車のような身近な技術を題材に，「物理基礎」の学習内容との関連を学習する。また，職業に就いている人の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの暮らしを支える技術に，高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。 		

		<p>声を紹介し、将来の進路について考える一助となるようにする。</p>	<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べるができる。 ・電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。 ・日常で使う電気を踏まえて、ジュール熱や電力について、主体的に考えることができる。 ・モーターの回転する機構について興味をもち、主体的に原理を考えることができる。 ・電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。 ・直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。 ・手回し発電機を用いたエネルギーの変換実験について、主体的に取り組むことができる。 ・新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探するなど、主体的に取り組むことができる。 ・スポーツや防災、自動車などの身近な科学技術に、物理学がどのように活用されているかについて興味をもつ。
--	--	--------------------------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年	2	単位数	4
使用教科書 副教材		Grove English Communication Ⅱ					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
授業中の活動 定期考査（知識・技能問題） 小テスト 等	授業中の活動 定期考査（読解問題） 小テスト 等	授業中の活動 定期考査（主体的態度） 提出物 等

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学 期	Lesson 1 Breakfast around the world	[題材・内容] ・世界には様々な朝食があることを読み取る ・朝食のランキングやメニューについての会話を聞き取る ・世界の朝食について意見を交換したり、説明したりする。 [文型・文法事項] 基本の5文型 / 動名詞	知 技	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。
	Lesson 2 What makes you a good street dancer?	[題材・内容] ・ストリートダンスがうまくなるために必要なことを読み取る ・ストリート文化やダンスについて聞き取る ・ダンスについて意見を交換したり、説明したりする [文型・文法事項] 完了形 / 進行形 / 完了進行形		思 判 表
	Lesson 3 Volunteering and music bring us together	[題材・内容] ・ボランティアと音楽を結びつける取り組みについて読み取る ・高校生のボランティアランキングについて聞き取る ・ボランティア活動について意見を交換したり、意味を説明したりする [文型・文法事項] 助動詞 / 助動詞+完了形 / to 不定詞の用法	主 体 的	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
	Lesson 4 Zoos - roles and challenges	[題材・内容] ・動物園の役割と新しい試みについて読み取る ・動物園にいる動物についての情報を聞き取る ・動物や動物園について意見を交換したり、説明したりする [文型・文法事項] 受け身 / 「svoo/svoc」の受け身 / 助動詞を含む受け身 / 進行形の受け身		
2 学 期	Lesson 5 Paper can change the future	[題材・内容] ・紙の歴史と環境問題について読み取る ・紙の需要に関するグラフについて聞き取る ・紙の用途や紙で作りたいものについて意見を交換したり、説明したりする [文型・文法事項] 分詞の形容詞的用法 / 「SVO(=that 節)」 / 「SVO(疑問詞節など)」 / 「SVC(=that 節など)」	知 技	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。
	Lesson 6 Our advanced network society	[題材・内容] ・デジタル社会の問題点と未来について読み取る ・身近なインターネット機器について聞き取る ・技術の進化によって未来に起こりうることについて意見を交換したり、説明したりする		思 判 表

	<p>Lesson 7 Connecting with people</p>	<p>[文型・文法事項] 「SV0to 不定詞」 / 「SVOC(=分詞)」 / 「SVOC(=原形不定詞)」 / 「SV(=seem など)to 不定詞」</p> <p>[題材・内容] ・人と人とのつながりの大切さについて読み取る ・高校生の夜間の過ごし方について聞き取る ・人とつながるための色々な試みについて意見を交換する.</p> <p>[文型・文法事項] as ~ as の用法 / 関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 前置詞+関係代名詞</p>	主体的	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。</p>
	<p>Lesson 8 Practice makes perfect : A Japanese baker's world victory</p>	<p>[題材・内容] ・大澤秀一さんの行動と意思を読み取る ・色々なパンについて聞き取る ・努力して一つのことを成し遂げることについて意見を交換する</p> <p>[文型・文法事項] 関係副詞 / 分詞構文 / 関係副詞の非制限用法</p>		
3 学 期	<p>Lesson 9 The world without honeybees</p> <p>Lesson 10 The forth bridge : an iconic landmark in Scotland</p>	<p>[題材・内容] ・ミツバチがいない世界について読み取る ・身近なハチの種類について聞き取る ・ミツバチがいない世界を想像して意見を交換する</p> <p>[文型・文法事項] 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / if のない仮定法 / 仮定法を含む表現</p> <p>[題材・内容] ・フォース橋の歴史と建造時の挑戦について読み取る ・スコットランドの文化について聞き取る ・歴史の裏にある人々の試行錯誤について意見を交換する</p> <p>[文型・文法事項] 倒置 / 省略 / 同格の that / 付帯状況の with</p>	<p>知 技</p> <p>思 判 表</p> <p>主 体 的</p>	<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。</p> <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。</p>

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	英語	科目	論理表現Ⅱ	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		My Way Ⅱ / My Way Workbook Ⅱ / 必携英語表現集					

学習の到達目標	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
授業内の活動 定期考査（知識・技能） 小テスト 等	授業内の活動 定期考査（読解問題） 小テスト 等	授業内の活動 定期考査（主体的態度） 提出物 等

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1学期中間	Lesson 1 I Love My Country	<p>[題材・内容] これまでの経験について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 現在完了形・過去完了形。</p> <p>[題材・内容] 自分の好きな場所について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 未来を表す表現。</p>	知技	現在完了形・過去完了形、色々な経験を表す表現、未来を表す表現、各地の有名なものを表す表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。
	思判表	お互いによく理解できるように、これまでの経験について、また自分の好きな場所について、多様な語句や文を用いて情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、書いたりしている。		
	主体的	お互いによく理解できるように、これまでの経験について、また自分の好きな場所について、多様な語句や文を用いて情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、書こうとしている。		
1学期中間	Lesson 2 School Life	<p>[題材・内容] 週末の予定について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 助動詞の表現。</p> <p>[題材・内容] 最新のものについて、情報を詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 助動詞 + have + 過去分詞 / beV + to 不定詞</p>	知技	助動詞の表現、色々な予定を表す表現、最新のものについて情報を伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。
	思判表	お互いによく理解できるように、週末の予定、最新のものについて、多様な語句や文を用いて情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合っている。		
	主体的	お互いによく理解できるように、週末の予定、最新のものについて、多様な語句や文を用いて情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、書こうとしている。		
1学期期末	Lesson 3 The Arts	<p>[題材・内容] 印象深かった授業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 受動態</p> <p>[題材・内容] 贈り物について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付けている。</p> <p>[文法事項] 不定詞（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法など）</p>	知技	受動態、授業で行われている内容、不定詞、贈り物でできることを表す表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。
	思判表	お互いによく理解できるように、印象深かった授業や贈り物について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、書いている。		
	主体的	お互いによく理解できるように、印象深かった授業や贈り物について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。		

1 学期 期末	Lesson 4 Food and Culture	[題材・内容] 歌舞伎について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	不定詞	不定詞、知覚動詞、使役動詞、日本文化を表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。	
		[文法事項] 不定詞		思判表	お互いによく理解できるように、日本の文化について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
		[題材・内容] 日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。		主体的	お互いによく理解できるように、日本の文化について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。
2 学期 中間	Lesson 5 Welcome to Our Town	[題材・内容] 無人レジについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	動名詞	動名詞、分詞構文、将来実現するかもしれないことを表す表現、職業が役に立っている状況を表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。	
		[文法事項] 動名詞		思判表	お互いによく理解できるように、色々な化学の技術、社会の状況と職業について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
		[題材・内容] 将来の社会の状況と職業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。		主体的	お互いによく理解できるように、色々な化学の技術、社会の状況と職業について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。
2 学期 中間	Lesson 6 Traveling Abroad	[題材・内容] ものの数や大きさなどについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	比較（比較級、最上級、同等比較）	比較や身近なものを表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。	
		[文法事項] 比較（比較級、最上級、同等比較）		思判表	お互いによく理解できるように、ものの数や大きさ、世界や日本の有名な場所について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
		[題材・内容] マダガスカル島について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。		主体的	お互いによく理解できるように、ものの数や大きさ、世界や日本の有名な場所について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。

2 学 期 期 末	Lesson 7 Sports	<p>[題材・内容] 火星について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 関係代名詞（主格、目的格、所有格、what） 関係副詞（where, when）</p>	知 技	関係代名詞、関係副詞、火星の環境を表す表現、火星に住むために乗り越えなければならない問題を表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。
		<p>[題材・内容] 火星での生活について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 関係代名詞・関係副詞(非制限用法など) / 複合関係詞</p>	思 判 表	お互いによく理解できるように、火星や火星での生活について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
			主 体 的	お互いによく理解できるように、火星や火星での生活について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。
2 学 期 期 末	Lesson 8 Everyday Technology	<p>[題材・内容] イギリスとカナダで使われる英語の違いについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 仮定法（仮定法過去・仮定法過去完了）</p>	知 技	仮定法や旅行先のできることを表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。
		<p>[題材・内容] 「もし〇〇がなかったら」というタイトルで、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 仮定法（未来に関する仮定法、as if ～、if を使わない仮定法）</p>	思 判 表	お互いによく理解できるように、外国についてや「もし〇〇がなかったら」というタイトルで、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
			主 体 的	お互いによく理解できるように、外国についてや「もし〇〇がなかったら」というタイトルで、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。
学 年 末	Lesson 9 Take Care	<p>[題材・内容] 世界の貧困問題について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 否定の表現</p>	知 技	否定や代名詞を使った表現、色々な経験・物事を表す表現、世界の格差を表す表現の意味や働きを理解し、適切に使っている。
		<p>[題材・内容] 食の不均衡の問題について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 代名詞を使った表現</p>	思 判 表	お互いによく理解できるように、悩み事や社会問題について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
			主 体 的	お互いによく理解できるように、悩み事や社会問題について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。

学 年 末	Lesson 10 SDGs — Take Action!	<p>[題材・内容] 医師の中村氏について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] 無生物主語構文</p> <p>[題材・内容] 医師の中村氏について、情報や自分の考えを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。</p> <p>[文法事項] That を使った表現</p>	知 技	無生物主語構文、物事の調べ方を表す表現、that を使った表現、人物を説明する表現の意味や働きを理解し、適切に使えている。
			思 判 表	お互いによく理解できるように、調べ学習で調べた事柄や自分の関心のある人物について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書いている。
			主 体 的	お互いによく理解できるように、調べ学習で調べた事柄や自分の関心のある人物について多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく伝え合ったり、論理的に書こうとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	保健体育	科目	体育	学年	2	単位数	3
使用教科書 副教材							

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p>	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>授業において、 知識・技能テストを設定</p>	<p>授業において、 思考・判断 表現を問う課題を設定</p>	<p>授業への取り組みを観察して 評価をする</p>
<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>	<p>A 優れている B 十分である C 不足している</p>

教科担当からの 補足・連絡	<p>施設の状況により実施種目に変更が生じる場合があります。</p>
------------------	------------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	1. 体づくり運動 2. 陸上競技 3. 選択1	50m 男子1500m 女子1000m ダンス 球技 (バレーボール) 球技 (ソフトボール)	<p>・体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・交流や発表の仕方には、それぞれのダンスに応じた交流や発表の形態、ステージの使い方、音響や衣装などのテーマに応じた選び方があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールをとらえることができる。</p>
			<p>・運動に取り組む場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</p> <p>・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てている。</p> <p>・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。</p> <p>・練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</p> <p>・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。</p>
			<p>・仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p> <p>・仲間の表現や踊りを認め合うなど、互いに共感し高め合おうとしている。</p> <p>・自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>

2 学 期	4. 選択2	ラグビー ハンドボール 器械体操 (マット)	知 技	<ul style="list-style-type: none"> ・空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶことができる。 ・器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて言ったり書き出したりしている。 ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 	
	5. 陸上競技	長距離走		思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。 ・陸上競技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。
				主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。
3 学 期	6. 選択3	バスケットボール 卓球 陸上競技 (投擲)	知 技	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすることができる。 ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ・助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。 ・投げの動作では、投げる側の腕を大きく振ることができる。 	
				思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ・練習や競技会の場面で、自己や仲間の活動を振り返り、よりよいルールやマナーについて提案している。
				主 体 的	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	保健体育	科目	保健Ⅱ	学年	2	単位数	1
使用教科書 副教材		(大修館)「新高等保健」体育					

学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
定期考査において、 知識・技能 問題を設定	定期考査において、 思考・判断 表現を問う問題を設定	「課題解決に向けた取り組み」の観点で評価をする
定期考査の得点率 A 優れている B 十分である C 不足している	定期考査の得点率 A 優れている B 十分である C 不足している	レポートの考察、授業振り返りの記述を基に A 優れている B 十分である C 不足している

教科担当からの 補足・連絡	
------------------	--

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	(3) 生涯を通じる健康 (7) 生涯の各段階における健康	⑦思春期と健康 ⑧結婚生活と健康 ⑨加齢と健康	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解したこと、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて理解したことを言ったり書いたりしている。
			<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。
			<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 学期	(1) 労働と健康 (7) 環境と健康	⑦労働災害と健康 ⑧働く人の健康の保持増進 ⑦環境の汚染と健康 ⑧環境と健康に関わる対策 ⑨環境衛生に関わる活動	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・環境衛生活動の現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連付けて理解したことを言ったり書いたりしている。
			<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。
			<p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3 学 期	(イ) 食品と健康	⑦食品の安全性 ⑧食品衛生に関わる活動	知 技	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されていることを言ったり書いたりしている。 ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するためには、自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用方法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 	
	(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	⑦我が国の保健・医療制度 ⑧地域の保健・医療機関の活用 ⑨医薬品の制度とその活用		思 判 表	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。
	(エ) 様々な保健活動や社会的対策				<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性、食品衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・我が国の保健・医療制度、地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
(オ) 健康に関する環境づくりと社会参加			主体的		

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		「MOUSAⅡ」(教芸)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出す良さや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性をさらに養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力をさらに伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
(1) 曲想と音楽の構造や、文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 (2) 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
音楽表現における「技術」は、リズム・音程の正確さ、音色等の的確さを実技テストを実施し評価。	音楽表現における「表現」は、その音楽の歌詞や背景を基に、どのようにフレーズを表現するか、実技テストを実施し評価	授業での活動状況。グループ活動での発言や、自分の役割の理解。活動への積極性を評価。

教科担当からの 補足・連絡	2学期にリコーダーを使います。ソプラノ・アルトどちらか用意してください。
------------------	--------------------------------------

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	<歌唱>	○糸 ○ハナミズキ ○歌曲 「Nel cor piu non mi sento」 「春への憧れ」	知 技	歌唱における「リズム」「音程」が正確であるか。 正しい発声、あるいは元気な声で歌っているか
	<理論>	○コールユーブンゲン ○モーツァルトとその時代	思 判 表	歌唱における歌詞や時代背景を理解し表現しようとしているか。
	<鑑賞>	○「アマデウス」 ・交響曲 ・レクイエム ・魔笛	主 体 的	音楽講義・鑑賞において主体的に参加できているか。
2 学期	<歌唱>	○コールユーブンゲン	知 技	歌唱における「リズム」「音程」が正確であるか。 器楽演奏における、楽器特性の理解度、および技術力。
	<器楽>	○リコーダー ○三線	思 判 表	器楽演奏における音楽的な演奏を表現しようとしているか。
	<鑑賞>	○West side story ○ショパン・ロマン派	主 体 的	音楽講義・鑑賞において主体的に参加できているか。
3 学期	<歌唱>	○美女と野獣 ○いのちの名前 ○Lascia chio pianga ○Tonight	知 技	歌唱における「リズム」「音程」が正確であるか。
	<合唱>	○練習、録音、採点	思 判 表	歌唱における歌詞や時代背景を理解し表現しようとしているか。
			主 体 的	合唱において協調性があるか

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		教科書…「書道Ⅱ」(大修館書店) 副教材…「高校硬筆練習帳」(大修館書店)					

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

評価の方法		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
学期末に授業内で実施する筆記試験において、【知識・技能】に関する問題を出題し、評価する。	毎時間の授業で提出した作品を学期末に「作品綴」とし、それを基に【思考・判断・表現】に関して評価する。	毎時間の「自己評価シート」や観察によって「試行錯誤を繰り返して粘り強く学ぶ様子」等を評価する。

教科担当からの 補足・連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費は、学年費から支出します。2,600円程度です。 ・硬筆テキスト「高校硬筆の練習」1冊に取り組みます。 ・実技科目なので、休まないで授業に臨むようにしてください。 ・教科書、書道道具一式、筆記用具を忘れずに持参してください。 ・作品は毎時間提出してもらいます。試行錯誤を繰り返し、粘り強く学ぶ様子を評価します。
------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準
1 学期	楷書の学習 孟法師碑、顔勤礼碑 魏靈蔵造像記、楽毅論 県硬筆展課題	楷書を構成するさまざまな要素、楷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 楷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における楷書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。	知技 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。 ・楷書や行書の古典の表現の技能を身につけている。 ・楷書や行書の古典の特質と歴史について理解を深めている。
	行書の学習 集王聖教序、争坐位稿 蜀素帖	行書を構成するさまざまな要素、行書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素、名筆や現代のさまざまな書の表現と用筆・運筆との関わりを理解する。	思判表 ・作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえている。 ・楷書や行書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、表現している。 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。
	漢字仮名交じりの書の学習 名筆に学ぶ表現の工夫 漢字の書の制作		主体的 ・主体的に楷書と行書の漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。
2 学期	草書の学習 草書の特徴、書譜	草書を構成するさまざまな要素、草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。	知技 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。 ・草書や隸書及び篆書の古典の表現の技能を身につけている。 ・草書や隸書及び篆書の古典の特質と歴史について理解を深めている。 ・篆刻の基本的な用刀や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。
	隸書の学習 隸書の成立と変遷 乙瑛碑、居延漢簡 県書きぞめ展課題	隸書を構成するさまざまな要素、隸書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。 篆書を構成するさまざまな要素、篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。	思判表 ・作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえている。 ・草書や隸書及び篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、表現している。 ・篆刻作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わってとらえている。
	篆書の学習 篆書の成立と変遷 金文、甲骨文 篆刻の学習 印の章法	草書、隸書、篆書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における草書、隸書、篆書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。 篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。	主体的 ・主体的に草書や隸書及び篆書の漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。 ・篆刻制作に創意工夫し、主体的に取り組んでいる。
3 学期	篆刻の学習 刻る手順	篆刻の表現を構成するさまざまな要素、篆刻の古典の特徴と用刀・運刀との関わりを理解する。	知技 ・篆刻の基本的な用刀や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。 ・日本の文字と書の伝統と文化について理解を深めている。 ・仮名の書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解を深めている。
	仮名の書の学習 平仮名の単体、変体 仮名 連綿、散らし書き 寸松庵色紙	仮名の書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 漢字仮名交じりの書の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	思判表 ・篆刻作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わってとらえている。 ・仮名の書の古典の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえている。 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。
	漢字仮名交じりの書の学習 作品の表現意図を考える 表現の広がり		主体的 ・篆刻制作に創意工夫し、主体的に取り組んでいる。 ・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・提出する作品の制作において、試行錯誤を繰り返し、主体的に粘り強く学ぼうとしている。

※状況により変更が発生する場合があります。

令和8年度 学習評価計画及び評価規準

埼玉県立所沢西高等学校

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	学年	2	単位数	2
使用教科書 副教材		高等学校の美術Ⅱ（日本文教出版）					

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
---------	---

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の方法

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
演習課題やワークシートにおいて、技法や材料の特性の理解を図る課題を設定し評価する 授業内で小テストを行う 演習課題とワークシート、アイデアスケッチ、課題等で評価する 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	説明・演習課題で得た知識・技能を自身の表現に生かそうとしているか。完成度の高さ、アイデアスケッチやワークシートの記録を基に課題作品で評価する 課題作品、提出物等の評価 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している	主に授業での活動状況、出欠、制作準備、提出物、作品鑑賞、振り返りで「粘り強く学ぶ力」と「自らの学びを調整する力」の観点で評価をする。 成績表 A 優れている B 十分である C 不足している

教科担当からの 補足・連絡	美術は知識・技能・思考・判断・表現・主体的な取り組みを通して作品を制作し、全体を通して総合的に評価します。
------------------	---

※状況により変更が発生する場合があります。

	単元	学習内容	観点別評価規準	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・パターンデザイン ・和文様を学ぶ ・ステンシルでエコバッグ 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのパターンを描く ・繰り返しの和文様を学ぶ ・オリジナルデザインを繰り返し、ステンシル技法でエコバッグを制作する 	知 技 等	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの文様が生まれているか ・アクリルガッシュの特性や色、道具の生かし方などを身に付けて制作できているか ・丁寧に制作しているか ・技法を理解し、「吊り」を正しく制作できているか ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか ・和文様の知識が定着しているか（小テスト等）
			思 判 表 等	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい繰り返しの文様が生まれているか ・アクリルガッシュの特性や色、道具の生かし方などを身に付けて制作できているか ・丁寧に制作しているか ・技法を理解し、「吊り」を正しく制作できているか ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか
			主 体 的 等	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に制作しているか（出欠含む） ・丁寧に制作しているか ・鑑賞、振り返りを通して自らの学びを調整しているか ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・漆蒔絵皿 ・西洋美術史 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統技法の漆と蒔絵を知る ・蒔絵皿制作 ・キュビズム、シュルレアリスム、印象派について 	知 技 等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統技法、漆について知識が深まっているか ・漆の特性の知識を持ち、制作しているか ・和文様を適切にデザインに組み込んでいるか ・ワークシートの質、量ともに十分か ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか
			思 判 表 等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統技法、漆について知識が深まっているか ・漆の特性の知識を持ち、制作しているか ・和文様を適切にデザインに組み込んでいるか ・ワークシートの質、量ともに十分か ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか
			主 体 的 等	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に制作しているか（出欠含む） ・グループ活動でコミュニケーションをしながら思考を深めているか ・鑑賞、振り返りを通して自らの学びを調整しているか ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術を知る ・現代美術アーティストになろう（制作） 	知 技 等	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術について知識・興味を深められたか（授業振り返り等） ・テーマ、コンセプトをまとめられているか ・ワークシートの質、量ともに十分か ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか ・作品（スケッチ）に対する解説がわかりやすくかけているか
			思 判 表 等	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術について知識・興味を深められたか（授業振り返り等） ・テーマ、コンセプトをまとめられているか ・ワークシートの質、量ともに十分か ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか ・作品（スケッチ）に対する解説がわかりやすくかけているか

			主 体 的 か 等 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に制作しているか（出欠含む） ・現代美術について知識・興味を深められたか（授業振り返り等） ・より良い作品にするために粘り強く制作し、創意・工夫をしているか ・鑑賞、振り返りを通して自らの学びを調整しているか
--	--	--	---

※状況により変更が発生する場合があります。